

あとがき

〈編集顧問〉

太田保世
諏訪邦夫
堀江孝至
村山正博

〈編集委員〉

相澤久道
和泉徹
小川聡
永井良三
平山篤志
三嶋理晃

〈編集協力委員〉

赤石誠
赤柴恒人
北風政史
近藤哲理
中沢潔

(五十音順)

この6月から厚生労働省健康局長の元に「慢性閉塞性肺疾患(COPD)の予防・早期発見に関する検討会」が作られた。これまでCOPDは過小評価・過小診断されている代表的な疾患であり、医療関係者や一般市民への啓発が重要であると繰り返し強調されてきた。この度、厚労省の主導でこのような検討が始まったということは、COPD診療にとって画期的なことであり、今後の展開が期待される。

さて、今月号の特集は「呼吸器疾患と分子標的治療」であるが、ここ数年「分子標的治療」という言葉からは、肺がんの新しい治療という印象が強かった。それほど、gefitinibのインパクトが強かったわけである。それまで、抗がん剤は「毒をもって毒を制す」というように細胞毒性の強い薬剤であった。肺がん領域ではgefitinibは初めて新しい薬理学的作用機序を有する薬剤であり、しかも著効する例もあるため非常に画期的な薬剤であった。分子生物学の目覚ましい進歩は、細胞の中で起こっている動きを私たちに具体的に示してくれるようになり、どこの段階を止めたらどのような変化が現れるかの予想も可能にしてくれた。その結果がEGFRやVEGFというような分子をターゲットとした薬剤の開発に繋がってきた。

医学は分化と統合を繰り返しながら進歩してきたが、その分化の最先端にあったのが標的分子であった。これは何も肺がんに限ったことではなく、あらゆる疾患にkeyとなる標的分子は存在する。そこで、IPF、喘息、COPD、肺がん、肺循環障害、感染症に対して今後重要となるであろう標的分子とその制御についての現状をそれぞれの専門家に解説してもらった。全体を通じて受けた印象は、一昔前なら分子生物学というある特殊な分野であったものが、今は全ての分野において普遍化していることである。あらゆる疾患に対してはもちろん、また生理学、生化学、病理学などこれまでの学問体系の中でのアプローチにも、分子生物学的な考えや手法が不可欠なものとなっている。そう言う意味では、綜説の「注目されるサイトカイン」も関連して是非読んでほしいと思う。

(相澤久道)

呼吸と循環(第58巻 第10号)

2010年10月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

2010年、年ぎめ予約購読料 31,800 円
(電子ジャーナル閲覧オプション付 41,400 円)
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 樋川・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株)医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCOPY 〈(株)出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。